

かがやき

みんな、みんな、輝いています



人権教育資料集3 (女性と人権)「かがやき」

もくじ

I 資料の活用にあたって	①
II 男女平等を基本とした教育	②
III 指導演の構成について	③

Stage 1 幼児期～小学校低学年

1 えを見てはなそう	1
2 遊びやおもちゃをしょうかいしよう	3
3 友だちのいいところ見つけた!	5
4 雨の日のものがたり	8
5 マイブランド Tシャツ	11
6 みんなでたすけあうっていいね	13

Stage 2 小学校高学年

1 いろんな仕事があるんだね ～見てみよう・聞いてみよう・調べてみよう、いろんな仕事～	17
2 「できるの木」をつくってみよう あなたはなにができる?	22
3 あなたにとって...	25
4 私のランドセル、なに色?	28

Stage 3 中学校～高等学校

1 女も苦勞 男も苦勞	31
2 ちがいのちがい	35
3 リーダーに求められるもの	39
4 子育てについて考えよう	47
5 私の住むまち	54
6 女らしさ、男らしさってなんだろう?	57

Topics

Topic 1 こうちの女性は元気者? いやいや、時代の最先端だったってこと!	74
Topic 2 国は、県は、男女共同参画社会をどのようにとらえているのかな?	77
Topic 3 資料提供先一覧・引用参考文献一覧	81

I 資料の活用にあたって

- 1 県民に身近な人権課題のうち、「女性と人権（男女平等）」にかかわって作成した資料集です。この資料集は、すべての学校で活用できる教育実践の資料集として作成しました。
- 2 構成として、ステージ1・ステージ2・ステージ3の3部構成になっています。児童生徒の実態にあわせてご活用ください。
- 3 各ステージの学年については、下記をイメージしています。
 - ステージ1 幼児期～小学校低学年
 - ステージ2 小学校高学年
 - ステージ3 中学校～高等学校
- 4 各ステージにおいて、学習をとおして児童生徒が身に付けたい力として、以下のようにイメージしています。
 - (1) 幼児期～小学校低学年
かけがえのない自分を知ることをテーマとし、「自己の性の認識」「多様性の受容」「性差による決めつけをしない態度」「ジェンダーに気づく力」をあげています。
 - (2) 小学校高学年
コミュニケーションの力をつけ、自尊感情を高めることをテーマとし、「ジェンダーの矛盾に気づき、とらわれない力」「性差にとらわれずに進路を選択できる力」「自己の性への肯定感を高めること」をあげています。
 - (3) 中学校～高等学校
社会の課題を自己の課題ととらえ解決できる力をつけることをテーマとし、「生き方やライフスタイルを考える」「個々の気づきや学びを共有し、認めあう集団をつくる力」「社会のジェンダーにとらわれた意識に働きかける力」「現代社会の問題点を明らかにし、課題解決をめざす力」をあげています。

児童生徒や、学校の教員、そして地域や保護者の現状と意識を、調査等によってつかみ、学習を通して、様々な実践者との出会い、自分自身をみつめるなかで、児童生徒の持てる力を確かなものにしていきましょう。ジェンダーにとらわれた考えや意識によってではなく「自分は自分ということ」を大切に生きていく力をつけましょう。

「ジェンダー」って何？

「ジェンダー」という用語は、1995年の第4回世界女性会議で採択された北京宣言及び行動綱領において、生物学的な性別を示す「セックス」に対して、社会的、文化的に形成された性別を示す概念として使用されています。

男女共同参画社会基本法においては「ジェンダー」という用語は使用していませんが、男女共同参画基本計画においては、「社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー）」と規定し、これに敏感な視点などの形で使用しています。（内閣府男女共同参画局ホームページ <http://www.gender.go.jp/>）

- 5 この資料集は、すべての学校の各段階における学習指導要領のもとで展開することができる学習事例として作成しています。
- 児童生徒の実態や題材、学習のねらいなどに応じて、各教科・各領域における学習に位置付けてご活用ください。
- 6 実践する際には、児童生徒の実態をふまえ、各学校の課題や学習時間に応じて、アレンジしてご活用ください。
- 7 「女性と人権（男女平等）」にかかわる学習を進めるために、次の点を押さえて児童生徒に指導することが必要です。
- (1) 「女性」にかかわる人権課題の学習は、画一的・機械的に男女の違いをなくし、人間の中性化をめざす学習ではないことをふまえておくこと。
 - (2) 学習をとおして、社会の中に存在する、「女だから」「男だから」という、「一面的な見方に影響された固定的な考え」に気付ける力を育成すること。
 - (3) お互いを尊重しながら、より良い社会を築くパートナーとして尊重できる児童生徒を育成するという、明確な目的をもって進めること。
 - (4) 性差にとらわれることなく、一人一人の個性や適性、興味関心に応じて、職業選択ができ、自らのライフスタイルを描くことができるように、「生き方」を学ぶ学習とすること。
 - (5) 現代社会の中に存在する、「女だから」「男だから」という、「一面的な見方に影響された固定的な考え」を取り除いていくために、自分たちに何ができるのか、何をしなければならないのかといった解決に向けての方向性を学ぶことができるようにすること。

II 男女平等を基本とした教育について

男女平等を基本とした教育を進めるにあたっては、「学習内容」だけではなく、「学習方法」「学級・学校環境」にも配慮する必要があります。学級・学校の仕事の役割分担や、「女子は〇〇、男子は〇〇」といった教師の日常の言葉などが繰り返されることによって、ジェンダーが再生産されるとも考えられます。

学級・学校環境を考えよう

学習活動のなかで、司会役や、まとめの発表をする係が男子に偏りがちではありませんか？女子にも男子にも発言する場を多く設定することにより、児童生徒一人一人が自分の意見を持ち、積極的に表現することの大切さを学びます。

学習の方法やポイントを考えよう


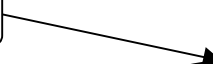


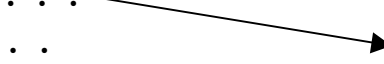

例えば、女子の持ち物の色は赤、男子の持ち物の色は青といった固定的な状況をとらえ、意識を変革する学習が行われることがあります。色に対する個人の指向性を学習の中心におくと、「女の子色・男の子色」ではなく、「自分の好きな色」として表現することで、自分の好きな色の発見や再認識につながる学習となります。このような学習の方法やポイントの置き方により、「他者の指向性の尊重」にもつながります。女性と男性がお互いを尊重する学習内容が子どもたちに伝わるように配慮しましょう。

学習内容を考えよう

「女子は〇〇である、男子は〇〇である」といった、性差を固定的にとらえたものを、「女子も男子も可能性がある存在である」といった内容に捉えなおすことが大切ではないでしょうか。そして、自分の意見が言え、他者の意見も尊重できるようになろうとする学習、性別によって役割が固定的ではないか、協力し合える関係とはどういったものかを考えることのできる学習、さらには、将来の自分の道を切り拓くことのできるような知識と方法を学ぶ学習が大切です。

Ⅲ 指導案の構成について

本資料集の指導案は、次の凡例に沿ってご覧ください。

指導のながれ	予想される生徒の反応
<p>質問は <input type="text"/> で表します。</p> <p>授業のながれの中で、特に今後の展開につなげる主要な発問には <input type="text"/> をしています。予想される生徒の反応は右に列記していますが、特に「指導のねらい」とかさなり、生徒の解決の力につながると思える反応を  で表します。</p>	
<p>.....</p> <p><input type="text"/></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p><input type="text"/></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p></p> <p></p> <p>.....</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

各項は

- 1 ねらい
 - 2 授業のながれ
 - 3 時間設定
 - 4 準備するもの
 - 5 指導上の留意点
- の順に配列しています。



<資料提供先一覧>

こうち男女共同参画センターソレ、高知労働局、高知市立自由民権記念館、高知市民図書館、高知県国際交流課、高知県男女共同参画・NPO課、高知県田内千鶴子愛の会、社会福祉法人こころの家族、岡上菊栄女史記念碑建設会、高知慈善協会、赤岡カトリック教会内「青涛の家」、私立土佐女子中・高等学校、独立法人国立女性教育会館、本山町立本山小学校、物部村立大柵中学校、高知市立南海中学校、高知県立高知農業高等学校、厚生労働省

<引用参考文献一覧>

- ・宮地仁 「おばあちゃんの一生」 岡上菊栄傳 岡上菊栄女史記念碑建設会 1950
- ・伊東良徳、大脇雅子、紙子達子、吉岡睦子 「教科書の中の男女差別」 明石書店 1991
- ・平沢安政、森実監修 「私・出会い・発見」 大阪府同和教育研究協議会 1996
- ・国立婦人教育会館 「女性学教育／学習ハンドブック」 有斐閣 1999
- ・藤田英典、黒崎勲、片桐芳雄、佐藤学編 「ジェンダーと教育」 世織書房 1999
- ・橋本紀子、村瀬幸治、和田章子、中嶋みさき編 「両性の平等と学校教育」 東研出版 1999
- ・池田寛 「学力と自己概念 人権教育・解放教育の新たなパラダイム」 解放出版社 2000
- ・高知市女性政策課 「日常生活における女性の人権に関する調査—『身近な男性からの女性に対する暴力』について—」 2000
- ・和歌山市立教育研究所 「男女共生教育に関する研究」 2000
- ・金井景子 「ジェンダー・フリー教材の試み—国語にできること 早稲田大学教育総合研究所叢書」 学文社 2001
- ・兵庫県人権・同和教育研究協議会 「あなたの豊かな人生のために じんけんスキルブック」 2001
- ・木村涼子 「なぜ、男女平等教育が必要か—大阪の子どもたちのジェンダー意識から—」 解放教育No. 409 明治図書 2002
- ・木村涼子 「特集の主旨」 解放教育No. 421 明治図書 2002
- ・土田陽子 「子どもの遊びとジェンダー —テレビメディアの影響から」 解放教育No. 421 明治図書 2002
- ・広岡守穂 「男女共同参画社会と学校教育」 教育開発研究所 2002
- ・高知市女性政策課 「高知市教育職員に聞く男女平等教育に関する意識調査 結果報告書」 2001
- ・松下佳弘 「小学校における人権学習の展開に向けてⅡ 男女平等についての学習プログラムと教科・領域における人権学習の内容」 京都市立永松記念教育センター 2002
- ・大阪府人権教育研究協議会 「『自分を生きる21』 男女共生教育教材集・実践集」 2003
- ・高知県教育委員会 「人権に関する児童生徒意識調査報告書 報告書」 2003
- ・高知市市民生活部 男女共同参画課 「保護者の子育てとジェンダー意識に関する調査 結果報告書」 2003
- ・武井優 「龍馬の姪 岡上菊栄の生涯」 鳥影社 2003
- ・内閣府男女共同参画局 「討議『男女共同参画に関する基本的な考え方』」 2003

<カット>

- ・小林正樹 「年中行事カットCD-ROM」 株式会社マール社 2003

<作成にご協力いただいた方々> (敬称略)

池田 光穂(熊本大学)

田内 基・田内初枝(社会福祉法人 こころの家族)

山中 政(社会福祉法人高知慈善協会)

武田 紀(赤岡カトリック教会「青涛の家」)

杉本 公美(土佐電気鉄道株式会社)

井上 茂彦(南国市立あけぼの保育所)

中島 有紀(高知市東消防署)

甲把 昭彦(高知記念病院)

関本 健二(高知総合リハビリテーション病院)

千頭 正利・千頭 理奈

藤坂 昌史・藤坂 夏子

福岡 裕人(南国市立後免野田小学校)

竹島 ゆかり(物部村立大柵中学校)

藤本 恵功(高知県立高知農業高等学校)

守田 えりな

人権教育資料集3(女性と人権)

かがやき

みんな、みんな、輝いています

編集・発行

高知県教育センター

高知市大津乙181

TEL088-866-3902

発行年月日

平成17年3月

印刷所

株式会社 美統

高知市瀬戸39番地1

TEL 088-841-4166

